

II. 使徒たちは、喜ばしい訪れの模範であった:

- A) 召会の中で、最も重要なものは人である。人が方法であり、人が主の働きである。あなたが何であるかが、何を行なうかである。
- B) 私たちは使徒たちの模範に従い、働きよりも命に注意を払う必要がある。

III. パウロは信者たちの模範であり、キリストのからだの建造のために、霊の中でキリストを生き、キリストをその霊として供給した:

- B) パウロはキリストをすべて(生活、模範、目標、秘訣)とした。
- C) パウロは霊によって生き、霊によって歩き、その霊へとまき、その霊を供給して、自分の霊の中で生活し奉仕する霊の人となった。
- E) パウロが生活し、すべての事を行なったのは、からだの中で、からだを通して、からだのためであった。

IV. 人を牧養する最上の方法は、正しい模範を与えることである:

- A) 使徒たちは福音を宣べ伝えただけでなく、福音を生きた。彼らが福音を供給したのは、言葉だけによったのではなく、神の力を展覧する生活、聖霊の中にある、信仰の確信の中にある生活によってでもあった。
- B) テサロニケの聖徒たちは使徒たちに倣う者となった。このことは彼らを導いて、主に従わせ、主を彼らの模範とさせ、他のすべての信者の模範とならせた。
- C) 使徒パウロは、使徒たちが信者たちの所へ入って行ったことを繰り返し強調した。福音を初信者たちの中へと注入することにおいて、使徒たちの生活様式が大きな役割を果たした:(**Dos:**青色、**Don'ts:**赤色、以下の1~9は、「模範になるための実際的な秘訣」である。)
 - 1. 苦闘しながら、神の大胆さの中でテサロニケ人に福音を語った。
 - 2. 欺き、汚れ、悪知恵がない。
 - 3. まず、絶えず彼らの心が神によって吟味され、調べられ、テストされる。その後、良しと認められ、神によって福音を託された。このゆえに、彼らの語りかけ、福音の宣べ伝えは、自分自身から出て人を喜ばせるものではなく、神から出て神を喜ばせるものだった。
 - 4. へつらいの言葉(ごますりの言葉)を使わない。口実をもうけてむさぼる(a.神の言を売り物にしたり、神の言に混ぜ物をする。b.利得のために敬虔を装う)ことをしない。
 - 5. 人からの榮譽を求めない。多くの人がこの事柄によって食い尽くされ、駄目にされてきた。ルシファーは榮譽を求めたために、神の内敵、サタンになった。どれだけ主によって用いられるか、どれだけ長く有用性が続くかは、人からの榮譽を求めるかどうかにかかっている。
 - 6. キリストの使徒として、自分の権威や威厳を行使しない。この模範に従うなら、キリストのからだの中の致命的な病原菌を、地位を求める病原菌を殺すことができる。クリスチャンの働きにおいて権威、威厳、権利を主張することは、その働きを破壊する。
 - 7. 復活の実際である主の臨在をもって、養う母が自分の子供たちをはぐくみ、慕わしく思うように、信者たちをはぐくみ、慕わしく思った。
 - 8. 神の福音をテサロニケ人に分け与えただけでなく、自分自身の命(魂)も分け与えた。清くて正しい生活をし、初信者たちに、自分の魂までも与えることによって彼らを愛することが、福音を彼らに注入するための必要条件である。
 - 9. 自分自身を父親と考え、信者たちに、神にふさわしく歩き、自分たちを神の王国に入らせる、神の栄光の中にもたらす歩みを持つように勧めた。

パウロは、キリストの天の務めと協力し、人々を牧養して、キリストのからだを建造することの模範である。